

# 全国の港湾初！農水産物輸出促進を目的とした屋根付岸壁 ～苫小牧港 西港区 汐見地区 屋根付岸壁整備事業について～

北海道開発局 室蘭開発建設部

## はじめに

我が国初の大規模な掘込港湾である苫小牧港は、北海道の中央に広がる石狩平野の太平洋西岸に位置し、札幌へ約60km、新千歳空港には約20kmと近く、他の道内主要都市へも高速道路や鉄道で接続され陸海空の交通の要衝となっています。内貿取扱貨物量は国内第1位、外貿コンテナ貨物は全道の約7割を扱う物流拠点としても大変重要な役割を担っています。

また、北海道の港湾は、道内の水産物水揚げ量の概ね4割を取り扱い、水産業の拠点としての役割も果たしております。苫小牧港沖には豊かな漁場が形成されており、水揚げ日本一を誇る「苫小牧市の貝」ホッキ貝を始め、スケトウダラ、サケなど100種類以上の魚種が水揚げされています。苫小牧港における水産物の輸出額は全国で2位と、北海道のみならず我が国の食料供給基地としての役割も果たしています。

## 事業概要

北海道の基幹産業であり強みでもある農水産業や食品加工業を持続的な成長産業としていくためには、農水産物やその加工品の輸出を促進することが重要となっています。このような社会情勢の中、国土交通省港湾局は、農水産物の輸出促進に向けた屋根付き岸壁や冷凍・冷蔵コンテナの電源供給設備の整備に対する支援制度を創設し、北海道6港湾(苫小牧港、石狩湾新港、紋別港、根室港、枝幸港および増毛港)の港湾管理者により策定された「農水産物輸出促進計画」を平成29年5月に全国で初めて認定しました。

室蘭開発建設部は、同計画に基づく施設整備として、苫小牧港西港区汐見地区において、全国の港湾で初めて水産物輸出競争力強化に資する屋根付岸壁とする改良工事を進めてきました。

同地区は、主に漁船が利用する小型船だまりを有しており、背後には漁業協同組合の倉庫や、水産物を取

## 農水産物輸出促進計画(北海道)の概要



### 本計画における各港の計画



農水産物輸出促進計画



岩倉苦小牧市長による式辞



来賓及び関係者によるテープカット

り扱う卸売市場などが立地する水産物の水揚げ拠点となっています。しかし、既存の岸壁は建設から40年以上が経過し、コンクリートの劣化やひび割れが発生するなど、施設の老朽化が進行しております。また、降雪や強風による、漁業従事者の作業効率の低下や、水揚げされた水産物の損傷や、野鳥による捕食が頻発しており、漁業従事者の就労環境や水産物の品質低下への対策も喫緊の課題となっております。


そのため、老朽化した岸壁の改良による延命化とともに、水産物の品質低下の回避、漁業従事者の就労環境の改善のため、岸壁を屋根で覆う「屋根付岸壁」の整備を平成29年度から着手しました。屋根付岸壁は全体3棟、251mを予定しており、平成30年3月に第1棟目となる52m(第1期)が完成し、同年4月から供用を開始しました。

### 供用式典

平成30年5月19日(土)には苦小牧港管理組合及び北海道開発局室蘭開発建設部が主催者となり、供用式典を開催しました。式典には約90名が出席し、主催者である岩倉苦小牧市長と平野室蘭開発建設部長によ

国土交通省

#### 屋根付岸壁利用者の声



利用者の声

「地元水産物の商品価値を高めることができ、アジアなどへの輸出増加につなげていきたい」

「寒さが厳しい冬の作業は、高齢になるほど身体的にきつい。風や雪を防いでくれると働きやすくなり仕事の効率も上がる。早く全て完成してほしい」

「雨や直射日光による鮮度劣化、鳥のふんなど異物混入を防ぐ衛生管理体制の強化に加え、漁労環境の改善も大きい」

「漁業者の安全・安心だけでなく、水産物の品質向上や地元漁業の発展にもつながる」

屋根付岸壁利用者の声

る式辞の後、菊地国土交通省港湾局長が挨拶を行いました。

これを受けて、来賓の挨拶に立った地元国会議員の方々(堀井学衆議院議員、佐藤英道衆議院議員、山岡達丸衆議院議員、神谷裕衆議院議員、小林勝也参議院議員)からご祝辞をいただきました。

その後、別所苦小牧港湾事務所長から「事業概要」、伊藤苦小牧漁業協同組合代表理事組合長から「輸出促進の取り組み」について報告があり、最後に来賓や関係者によるテープカットが執り行われました。

### おわりに

本事業は、政府目標である平成31年(2019年)に農林水産物・食品の輸出額1兆円、平成41年(2030年)に5兆円の実現に貢献することを期待されています。そのため、室蘭開発建設部としては、周辺環境の保全と工事安全に万全を期し、全3棟を1日も早く完成させるべく、引き続き鋭意事業を進めていきます。

